

避難者検診の取り組み

避難者健診

2014年3月16日（日）に耳原総合病院（大人9名・18歳以下の子ども14名）、つづく23日（日）は西淀病院（大人11名・18歳以下の子ども17名）で福島原発の避難者の方々の健診が実施されました。昨年にひきつづく取り組みですが、昨年は18歳以下の方を対象にしての健診でしたが、今年はその枠を取り払い大人の方も対象に加えての実施です。そこで健診の受け入れ枠を倍化するため、2期に分けて健診を実施することになり、今回は第1期の実施分です。6月には第2期の健診を再び2病院で実施する予定です。昨年は、無料で実施しましたが、今年は新たに対象を広げた大人の方については健診料として3000円をご負担いただきました。

先の見通しが立たない暮らし

東北・関東から多くの方々が関西に避難されています。その大部分の方々は、福島原発の放射能汚染が、子どもに及ぼす影響を心配してのことです。なかでも避難指示区域外からの避難者には、どこからの補償もなく、仕事のある夫を被災地に残して母子避難した家族の多くは貯金を切り崩しながら二重生活しているのが実情です。先の見通しが立たない暮らしの中で大きなストレスを抱え、健康に及ぼす影響が心配されます。

ひろく取り組む健診

健診では診察や尿検査・採血・心電図等を実施しますが、避難者の方々に特に喜ばれているのが甲状腺エコー検査の実施です。甲状腺がんの発症については、今回、異常がなくても来年・再来年も大丈夫という保証はありません。この健診は大阪民医連的に取り組むという位置づけなので、今回1期の検診でも、淀協・同仁会の外、医療生協かわち野、ヘルスコープおおさか、共和会、阪南医療生協、大阪民医連事務局からも医師・看護師・検査技師・事務が参加しました。

今回の健診では新たに避難者の会の「まるっと西日本」との繋がりを中心に耳原総合病院の時には8名、西淀病院の時には6名のボランティアが参加しました。ボランティアの方々は、子どもの相手や健診の順路の案内にと大活躍をして健診の運営に大きな役割を果たしてくれました。

昨年と同様に受診者からは大変、感謝されました。大阪民医連は、来年以降も引き続き実施していく方針です。